

家庭医診療科

1. 2006 年度の目標と方針

1) 診療部門

亀田ファミリークリニック館山の、診療、運営、教育、経営の面においてスムーズで素早い立ち上げを目指す

診療内容や分野の更なる拡大、かつ診療内容の標準化

地域を視野に入れた医療の質向上のためのプロジェクトの立案、計画、実施

2) 教育・研修部門

スタッフの増員

教育・研修内容の更なる多様化

研修目標の明文化、カリキュラムおよび研修医評価方法の確立

3) 研究部門

医療の質に関する研究

教育の質に関する研究

2. 2005 年度評価

2005 年も実り多き年であった。また、2002 年 9 月より岡田が部長代理として着任して以来 3 年、亀田ファミリークリニック館山(以下 KFCT)の計画が立ち上がる、という大きな節目そして新たなるチャレンジへと動き出した年であった。KFCT 以外の話題としては、サテライトであった茂原機能クリニックでの常勤医確保、小児科などでの更なる診療枠や領域の拡大、ジュニアレジデントへの救急当直指導を通じての関与などが主であるが、非常に大きな一歩として診療の質保障(CQI)活動をようやく開始することが出来たことが上げられる。それらを含め、以下にまとめる。

まずはじめに、診療上の協力もさることながら、診療領域の特性上当プログラムだけで家庭医の教育を行うことはできない。診療業務だけでも忙しい中、我々の目指すもの、希望を理解し、柔軟に、また忍耐強くシニアレジデントを受け入れていただいた全ての診療科の先生方、スタッフの皆様、そして家庭医診療科付きの看護師、PSR をはじめとするスタッフの皆様はこの場を借りて感謝したい。

特に診療上も緊密な連携を頂き、また、受け入れ人数も時間も多い、在宅事業部、小児科、産婦人科の皆様には本当に感謝している。皆様の協力なくしてはすばらしい家庭医を育てることはできないため、どうか今後ともよろしくお願い致したい。

【診療部門】

1) 茂原機能クリニック

2003 年 8 月から始まった茂原機能クリニックへの出向であるが、当初は週 2 日のみ、その後は、交代でなんとか週 5 日をカバーしていたが、2005 年 5 月より、北海道家庭医療学センターで家庭医としての研修を修了した細田俊樹医師が出向の形ではあるが、正式に茂原機能クリニックの常勤医として就任、茂原、長生地区へのより安定、継続した医療の提供が可能となった。またシニアレジデントの研修の内容にも厚みが出た。その効果もあり、のべ受診者数は 2005 年 5 月の時点で月当たり 628 件から、2006 年 3 月で 1,072 件へ増加。インフルエンザワクチン接種数は 614 件(2005 年 10 月から 2006

年1月)。亀田メディカルセンターへの紹介は画像読影が106件(2005年5月28日～2006年3月)、救急センターへの紹介が62件(2005年8月～2006年3月)であった。その他訪問診療を開始、また、6月から9月まで長生病院救急外来当直担当を担当するなど、幅広い診療を行った。当科の2006年度からのKFCTへの移動に伴い、細田医師は茂原機能クリニックの常勤医へと籍を移し、我々の出向は終了となった。もともとの当科の使命であった茂原・長生地区に質の高い家庭医療、プライマリ・ケアを提供するという目標は、その地域に住む優秀な家庭医常勤医の確保という形で達成され、我々の役割は終わったものと思われる。

2) 亀田クリニック/亀田総合病院

家庭医診療科外来

成人を中心に主として継続的で包括的な診療を提供している。2005年4月から2006年3月までの家庭医診療科受診の述べ患者数は13,878人であった。昨年の計画通り、ほぼ2枠以上の診療体制を達成することが出来た。KFCTの開設に伴い、2006年度は大幅な診療枠の縮小を行い、当科通院中の鴨川以北(いすみ市、勝浦市、鴨川市など)からの患者さまと、当科指定の受診希望、紹介患者さまにしぼり、亀田クリニックでの診療を継続する予定である。

入院診療

2年目となった2005年度の入院患者数は、計54名、述べ入院日数は1,375日であった。引き続き、少ないながらも外来患者さまへの継続的、勝包括的な医療を提供することが出来た。KFCT発足以降は、当科のマンパワーを集中させるため、残念ながらいったん入院診療は中止とし、今後は総合診療・感染症科やその他当該科への依頼による連携にて継続的、包括的医療を提供することになる。

小児の診療

当院小児科の多大なる理解と協力によりさらに小児診療の場を与えていただき、昨年度は外来を一般初再診を週4枠、乳児検診を週1枠、小児科当直を月6回担当させていただいた。2006年度は、KFCT家庭医により館山市、南房総市の小児医療に更なる貢献を期待されており、家庭医による小児医療の提供は全国的に問題である小児科医不足解消の一つの解決策となるであろう。

妊婦検診

産婦人科の多大な理解と協力により、非常に少ない数であるが、当科の医師を主治医として妊婦検診と出産介助、産じょく検診を引き続き行なっている。出産後、産じょく検診と乳児検診を同時に、母子共に診ることで家庭医の視点でなければ提供することのできないケアは全国でも他に類を見ないため、今後継続していきたい。

救急当直

小児科当直に加え、内科当直の分担も担当した。

3) 訪問診療

在宅事業部の協力により当科シニアレジデントも、訪問診療のチームの一員として、南房総の訪問診療の一端を担っている。2006年度は、当科のスタッフである藤島医師と、4月に後期研修修了した大川医師が在宅事業部へ移籍、またKFCTの開設後は、館山市、南房総市の多くの地域への訪問診療はKFCTから提供を行なう予定であり、家庭医による訪問診療への貢献度はさらに上昇すると考えられる。

4) 特別養護老人ホームめぐみの里

昨年と同様、入所者のほぼ全員が肺炎球菌ワクチン接種者であり、インフルエンザワクチンもほぼ全員に接種が出来た。引き続き今シーズンもインフルエンザの発生は 0 件であり、また全国的に高齢者施設で流行し問題となったロタウイルスも発生することなく無事年度を終えることが出来た。KFCT 開設後は、嘱託医機能を在宅事業部に移行する予定である。

5)乳癌健診

乳腺科(旧乳腺外科)の依頼を受けて、周辺の自治体における乳癌検診の受託事業に協力を行なった。医師による触診が必要とされる自治体の検診週 3 日のうち 1 日を当科の医師が担当した。

6)介護予防事業、クラブ千葉における運動可否判定鴨川市からの委託である介護予防介入プログラムのパイロット事業での該当者の筋力トレーニングへの参加の可否判定、千葉県の観光立県千葉モデル推進事業の一環である、健康ちば旅倶楽部 (CLUBCHIBA)〔観光課・戦略プロジェクト推進室〕の実施に際し、亀田クリニックとしては当科の医師が運動可否判定を行った。運動可否判定は循環器の側面、運動器の側面、精神的な側面、ADL の側面から総合的に行う必要があり、家庭医の様な Generalist の能力が発揮しやすい分野と考えられる。

7)亀田医療技術専門学校の学校医業務

昨年同様、亀田医療技術専門学校健康相談日を月 1 回実施した。回に 0~4 名程度ではあるが、学生生活のちょっとした不安への対応など、ニーズに応えられている。

2004 年度同様、新入生入学時検診の効率化、麻疹、水痘ワクチンなどの徹底、B 型肝炎ワクチンの奨励を行った。また、学校医の立場からの学生自身の健康管理についての話も同様に実施した。

本年度もインフルエンザの予防接種を全面的に推奨した。結果、昨シーズン以上に接種率は上昇、94.7%の成果を収めることが出来、その効果もあり、昨シーズンの学校でのインフルエンザ発生は 0 件と、非接種者がいたにもかかわらず、集団免疫を獲得することも出来たようである。3 年間の推移は後述する。

8)継続的な活動

インフルエンザ

2004 年度に引き続き小児科とのコラボレーションによってインフルエンザ予防接種キャンペーンを行った。感染管理室の協力により、親子が 1 箇所接種できるようポスターによる案内と家族接種枠の設置を行い、好評を得た。家庭医診療科における昨シーズンのインフルエンザワクチン接種数は、家庭医診療科外来にて行ったものだけで 726 件である。(小児科外来で行ったものは含まれない)

地域健康増進活動

近隣の学校やサークルなどの要請を受けて健康教室や勉強会を 14 件と数多く担当させていただいた。そのトピックは後述のように、非常に幅広い領域をカバーしている。

当院からの派遣ではないが、当科の持つ generalist のネットワークを通じて国保鋸南病院へは引き続き医師の補充を行なっている。

【教育・研修部門】

1)修了生

3 期生の藤島医師を 2005 年 4 月に、4 期生の大川、阪本医師を 2006 年 4 月に無事研修修了として送り出すことが出来た。藤島医師は修了後 1 年間当科のスタッフとして期待以上の貢献を下さり、感謝に堪えない。2006 年度は在宅事業部へ移籍の予定である。4 期生 2 名は岡田が着任後初めて採用か

ら 3 年間関わったクラスだったこと、中途脱落者が出たことなどもあり、修了時は感慨ひとしおであった。大川医師は 2006 年度は在宅事業部へ移籍、阪本医師は KFCT の重要な屋台骨の 1 人として KFCT の立ち上げから協力してくださることとなり、非常に感謝している。修了生は計 4 期 6 名となった。

2)シニア

昨年度採用のシニアレジデント 3 名(第 6 期生)が 2005 年 5 月より、採用、研修開始となった。例年に漏れず優秀な人材ばかりで、この 1 年間目覚ましい成長を遂げた。第 7 期生は 4 名を採用としたが 2006 年 5 月は 3 名にての開始で、残り 1 名は 9 月開始の予定である。

3)ジュニア

病院全体の教育戦略である 4T's に基づいて、将来家庭医の後期研修に進むことを前提としたジュニアが 1 名採用となった。これにより家庭医志望の初期研修医は 3 名で 2005 年度をすごした。1 名は今春より家庭医の後期研修へ継続、もう 1 名は当院の救命救急科にての後期研修へ継続となった。新規 1 年生の採用はマッチング該当者なしという結果であり、非常に残念ながら 0 名である。

4)スタッフ

昨年度は修了後在留の藤島医師、北海道家庭医療学センターからの細田医師の採用により、スタッフ(兼指導医)が 3 名となり、大幅に、指導医-研修医比率が改善した。

5)他科研修医への教育

初期研修医の外来教育の充実を目的に、平日の救急外来の 19~23 時を利用することとなり、その時間帯に指導医として救急室に勤務する医師の候補を集めたが、内科、外科両方に対応でき、かつ適切な指導ができる必要があり、救命救急科、総合診療教育部、および当科のみから候補者が出されたが、当科からは 3 名月 6 回の担当を任された。引き続き当科医師による指導の評価は高かったようである。また、短期間(1~2 週間)であるが必修項目である地域保健・医療の枠組みで数名の選択研修を受け入れ、こちらでも高い評価を得た。

後期研修医

2005 年度より、総合診療教育部のシニアレジデントは当科への 1 ヶ月のローテーションが必須となった。外来の良く見られる疾患を中心に、理論と実践を組み合わせた研修を数名に提供し、これまでは不十分であった総合診療教育部の外来研修の質向上に貢献することが出来た。

院内 ACLS の講師としても教育に携わることが出来た。

6)昨年度の目標であった研修目標の明文化、カリキュラムおよび研修医評価方法の確立については残念ながら実現しなかった。今年度への持ち越しとしたい。

7)見学受け入れ

最近の家庭医への興味もあって多くの問い合わせ、見学があった。1 日ではお互い十分理解できないとのことで、2005 年度から最低 3 日間のコースとし、見学者の満足度は向上したようである。医師は問い合わせ 30 名、うち見学 29 名、学生は問い合わせ 31 名、うち見学 28 名であった。

8)これまで実験的に行ってきた指導医養成コース(FD:Faculty Development)を本格的に HANDS-FDF(Home/Away Nine Days-Faculty Development Fellowship)として、当院外の医師 9 名の修了者を出すことができた。おそらく日本では最初の単発型ではない本格的な指導医養成コースといえるのではないだろうか。

【研究部門/診療の質保障活動】

1)厳密な意味では研究ではないが、2005年度の大きな目標であった質の評価(audit)および、継続的な質の改善活動 Continuous Quality Improvement(CQI)にきちんと取り組むことが出来た。以下に列挙する。その他の発表されたものについては後半の学術関係を参照されたい。

糖尿病診療

成人の診療の多くを占める2型糖尿病は管理項目が多く、また行動変容を促進する能力など Chronic Disease Management の方法論に習熟している必要があり、generalist の質が問われる領域である。大原医師が中心となって、2005年1年間に最低複数回当科の医師が診療した2型糖尿病の患者さま243人<平均年齢62歳>について、診療の質を各種指標(QI:Quality Indicator)を用いて評価した。ここでは American Diabetes Association と National Committee for Quality Assurance によって提示された Diabetes Physician Recognition Program<糖尿病診療において一定の質を達成した医師/医療機関を認証する仕組み>に基づいた結果を提示する。

Diabetes Physician Recognition Programのスコアリング

評価項目	基準値	当科の値	スコア
HbA1c Poor Control >9.0%	20%	2%	+10.0
HbA1c Control <7.0%	40%	70%	+5.0
Blood Pressure Control <140/90 mm Hg	70%	64%	(+10.0)
Blood Pressure Control <130/80 mm Hg	35%	36%	+5.0
Eye Examination	60%	77%	+10.0
Smoking Status and Cessation Advice or Treatment	80%	78%	(+5.0)

Diabetes Physician Recognition Programのスコアリング

評価項目	基準値	当科の値	スコア
Complete Lipid Profile	85%	98%	+5.0
LDL Control <130 mg/dl	63%	73%	+7.5
LDL Control <100 mg/dl	36%	33%	(+2.5)
Nephropathy Assessment	80%	88%	+10.0
Foot Examination	80%	32%	(+10.0)
total	60/80		45/80

看護学校でのインフルエンザワクチン

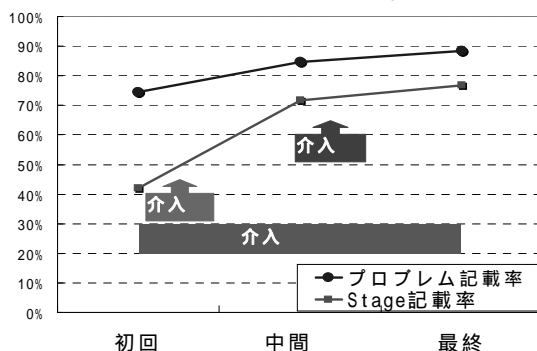
先述の通りである。以下にデータを示す。

シーズン	接種率(%)	予防効果(RRR.%)	p-value
2003-2004	69.7	71	0.072
2004-2005	84.9	69.4	0.04
2005-2006	94.7	発症者0名のため算出できず	

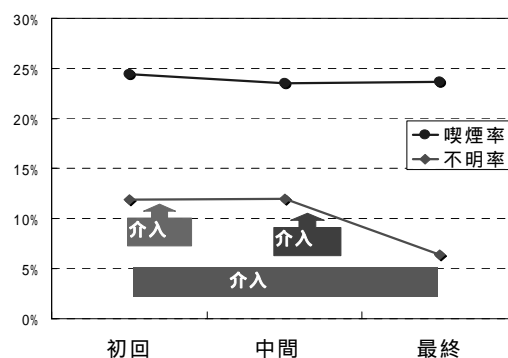
禁煙プロジェクト

大川医師を中心に取組が行われ、半年弱という期間上、禁煙率の向上こそ見られなかったが、カルテの記載率の改善は見られ、今後の経過を見ていきたい。

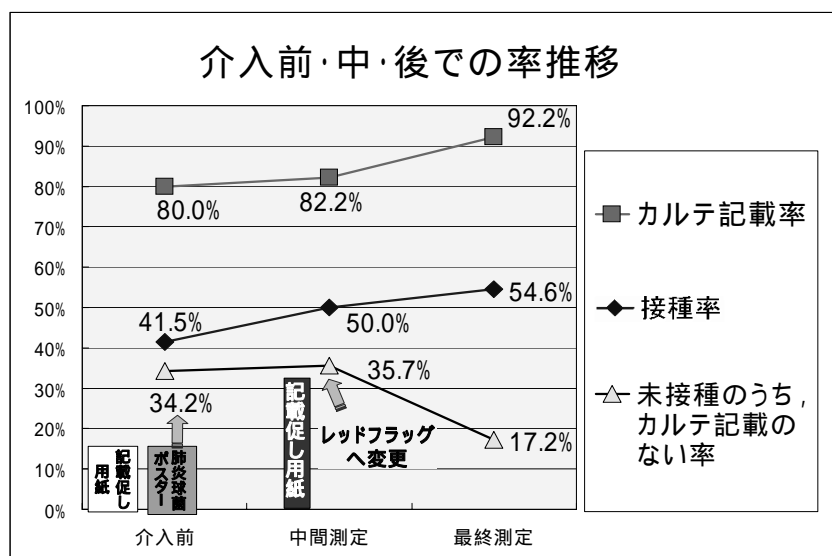
禁煙率向上project
プロブレム記載率・Stage記載率



禁煙率向上project
喫煙率・喫煙歴不明率



肺炎球菌ワクチン接種率向上プロジェクト 65 歳以上の患者さまを対象に、阪本医師を中心に実施され、日本の全国的な接種率は2.2%という報告がある中で、非常に優秀な成績であると考えている。



【国際交流】

タイの Ramathibodi Hospital より、家庭医のレジデントとして研修の最終学年(3 年目)である、Dr. Wajana (Jay) Laohacharoensombat を 11~12 月の 1 ヶ月間選択研修の一環として受け入れた。タイも数年前に国策として家庭医制度を取り入れたばかりであり、様々な共通点もあり、また、タイの医療制度、研修制度などから我々自身のそれを見直す貴重な機会でもあった。

3. 業務紹介、スタッフ数

業務は外来診療が中心であるが、家庭医療学の理念である「質の高いプライマリ・ケアを、年齢、性別、疾病の種類にこだわらず、それぞれの人生、家族、地域、社会の中に置かれた状況に合わせて、継続的に提供する」ことを目標に、クリニック外来、サテライトクリニック、入院、救急、往診、特別養護老人ホーム、学校等、様々なセッティングで活動を行っている。KFCT の開設により、鴨川における入院、救急、訪問診療、特別養護老人ホームなどのフィールドはいったん手放すことになるが、KFCT の運営が軌道に乗り次第、再度館山地域において着手する予定である。

現在のメンバーの概要を以下に示す。経歴、資格、役職などは当院のホームページを参照されたい。計 13 名(2006 年 6 月現在)で他の診療科に比べると診療より研修医の教育の比重が大きい。

- ・ 部長(スタッフ、指導医)：岡田唯男
- ・ スタッフ：阪本直人(4 期生)
- ・ 後期専門研修医(3 年間)
- 5 期生：伊藤かおる、田口智博、西岡洋右
- 6 期生：大原さやか、児玉和彦、篠原 翼
- 7 期性：(2006 年 5 月より)大石 愛、小宮山 学、本山哲也、(2006 年 9 月より)池尻好聰
- ・ 初期研修医：(家庭医志望、所属は卒後研修センター2 年間) 吉田賢史(2 年目)
- ・ 特別研修生：久保田智子(在宅事業部)
- 関口 隆(小千谷総合病院 2006 年 6 月より 6 ヶ月)

浜野 淳(国保鋸南病院 2006年4月より6ヶ月)

4. 年間活動内容と実績

上記参照。

5. 教育・勉強会

後期専門研修の研修内容、到達目標の概要は亀田メディカルセンター研修医ホームページ (<http://www.kameda-resident.jp/>)を参照されたい。当プログラムにおける後期専門研修の特徴として、1)米国の卒後研修認定審査会(ACGME)の規定する家庭医療学の研修基準および Outcome Project の基準を可能な限り満たしていること、2)新しい家庭医療 (Future of Family Medicine Project)を念頭においていること、などがある。更なる詳細は別途の研修プログラム概要に記載する。

2005年度の教育的意義も含めた診療の質向上のための講義、症例検討会の時間は以下の通りである。

・水曜 14:00-17:30

運営会議、講義、勉強会、プロジェクト

・水曜 17:30- EBM journal club、在宅医療勉強会(月1回)

・金曜 7:30- Morning Conference

・金曜 17:30-Case Conference

EBM journal clubについてはより現場のニーズ、時代のニーズに即したスキルの習得を目指して、内容の改訂を行った。1次資料の批判的吟味の量をへらし、検索、2次資料の利用の配分を増やした。

外部講師については、昨年度は藤沼康樹先生(北部東京家庭医療学センター)、木村琢磨先生(国立病院機構東京医療センター総合診療科)、Dr. Madelyn Pollock(カンザス大学医学部家庭医療科)、小嶋一先生(ピッツバーグ大学 UPMC Shadyside)、桜井隆先生(さくらクリニック)、神保真人先生(ミシガン大学 家庭医療学講座 assistant professor)の延べ6回と2004年度を上回った。引き続きさまざまな分野からの講師を招きたい。部長の専門分野に伴う対外的な講演などは次項を参照されたい。

6. 学術関係

1)原著論文(Original Articles, Refereed Articles, Systematic Reviews)

神保真人、マイク・D・フェターズ、西上尚志、カール・ルー、竹村洋典、マデリン・ポラック、清田礼乃、岡田唯男、佐野 潔：日本の家庭医療学における教育、臨床、研究と今後の発展に対する問題点と解決策：世界一般家庭医学会(WONCA) ワークショップのグループインタビューより得られた知見家庭医療 2006.12(1),4-14

2)出版(分担執筆、翻訳も含む)

喜瀬守人、西岡洋右、大橋博樹、田頭弘子(翻訳) In：亀谷 学、大橋博樹、喜瀬守人、喜瀬守人監訳：セイントとフランシスの内科診療ガイド第2版東京メディカル・サイエンス・インターナショナル 2005

Okada T. Labyrinthitis. In:Dambro RM, ed. Griffith's: 5 Minute Clinical Consult. Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins; 2005.

Okada T. Mastoiditis. In: Dambro RM, ed. Griffith's: 5 Minute Clinical Consult. Philadelphia, PA:

Lippincott Williams & Wilkins; 2005.

Okada T. Motion Sickness. In: Dambro RM, ed. Griffith's: 5 Minute Clinical Consult. Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins; 2005

岡田唯男(訳)：外来診療現場における教育目標

In：大西 弘高(監訳)：外来で教える 診察室で医学生・研修医を指導するために東京南山堂 2005年5月18-36 (日本語版 "Teaching Ambulatory Medicine. Moving Medical Education into the Office." By Durso SC. 2002. The Johns Hopkins University Press)

岡田唯男：「1分間プリセプティング one minute preceptor」「症例集積研究 case series」「症例対照研究 case control study」「前向き研究 prospective study」「無作為化比較試験、ランダム化比較試験 randomized controlled trial:RCT」「メタアナリシス、メタ分析 meta-analysis」「MEDLINE」 In:日本プライマリ・ケア学会編プライマリ・ケア用語集東京エルゼビア・ジャパン株式会社 2005年5月 22.p.95,95,160,161,161-162,162.

岡田唯男、田頭弘子：「Iよくみられる症状3 月経障害」 In：葛西龍樹編スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで-第1版大阪永井書店 2005年6月150-166

岡田唯男：「Iよくみられる症状21 不妊」 In:葛西龍樹編スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで-第1版大阪永井書店 2005年6月355-362

岡田唯男：「 系統別問題4 周産期ケア」 In：葛西龍樹編スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで-第1版大阪永井書店 2005年6月693-710

喜瀬守人、岡田唯男：「 系統別問題10 避妊の問題」 In：葛西龍樹編スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで-第1版永井書店 2005年6月784-795

岡田唯男：「臨床現場でのコミュニケーション14 "彼/彼女を教育するのは難しい"と感じたとき Difficult teaching encounter への対応」 In：尾藤誠司、藤沼康樹(編集)決定版!スグに使える臨床研修指南の21原則総合診療ブックス医学書院 2005年6月p122-131

岡田唯男：「総論1. アメリカ臨床留学 -Overview- E. 臨床研修修了後の人生」「17. 私のアメリカ臨床研修 . Fellowship. J. Faculty Development」 In：佐藤隆美、中川伸生編著アメリカ臨床留学への道-You can do it! 第3版南山堂 2005年10月

岡田唯男、藤沼康樹、杉本なおみ(共著)：臨床指導医養成必携マニュアルぜんにち出版株式会社東京 2005年12月20日発行

3)原著論文以外(総説、Review、Thesis、依頼論文、手紙、報告など)

Okada T, Rao G. Using the Likelihood ratio- Language of Evidence-. The Journal of Family Practice. 2005,2 2005;54(2):127-128.

岡田唯男：家庭医という仕事 ~ 医師は本当に理系の仕事か ~ 科学技術へのいざない -神戸高校卒業生からのメッセージ- (平成17年度スーパーサイエンスハイスクール研究事業の一環として卒業生の活動を紹介する冊子として編集されました) 2005年2月1日発行

伴信太郎、鈴木富雄、山中克朗、岡田唯男：第11回医学教育セミナーとワークショップ ワークショップ2：臨床研修指導医のための教育技法：「教育」というコミュニケーション In：高橋優三、鈴木康之編新しい医学教育の流れ'04 医学教育セミナーとワークショップの記録名古屋三恵社 2005, 3:116-129

岡田唯男、溝岡雅文：第13回医学教育セミナーとワークショップ ワークショップ3：臨床研修指導 In：高橋優三、鈴木康之編新しい医学教育の流れ'04 医学教育セミナーとワークショップの記録名古屋三恵社 2005, 3:457-500

岡田唯男、西野 洋：Faculty Development について In：尾形逸郎、吉津みさき、井村 洋、葛西龍樹、岡田唯男編厚生労働科学研究研究費補助金医療技術評価総合研究事業 臨床研修の実際に関する調査およびその解析 平成16年度総括・分担研究報告 2005,32005:75-103

伊藤かおる：投稿「2004年WONCA/AAFPに参加してWONCAアジア大会日本開催に寄せて」週刊医学界新聞第2632号 2005年5月9日

大川 薫：ただいま後期研修中！「ロールモデル・同志と学ぶ家庭医療」レジデントノート 2005年11月号 Vol.7 No.8

岡田唯男：【特別掲載】後輩がやってくる！レジデントノート 2006年3月号 Vol.7 No.12

4)学会、研究会発表

Keisuke Watanabe、Koichi Ida、Daisuke Yamashita Ryohei Otsuka、Tadao Okada. ScholasticPoster:「The Strategy to Promote Family Medicine in Japan by Summer Seminar for Students and Residents」38th. STFM Annual SpringConference. Society of Teachers of Family Medicine. New Orleans, LA, USA. April 30- May 4, 2005

西岡洋右、岡田唯男：ポスター「亀田メディカルセンターにおける、職員とその子供のインフルエンザワクチン接種状況改善のための介入」第20回日本家庭医療学会学術集会(世界一般医・家庭医学会 2005年アジア太平洋学術会議(WONCAAsia Pacific Regional Conference 2005)と同時開催) 京都 2005年5月

岡田唯男：ポスター「家庭医後期専門研修紹介」第20回日本家庭医療学会学術集会(世界一般医・家庭医学会 2005年アジア太平洋学術会議(WONCAAsia Pacific Regional Conference 2005)と同時開催) 京都 2005年5月

岡田唯男：ポスター「P2-18. Home/Away型 part time 指導医養成フェローシップの試み(HANDS-FDF)」第37回日本医学教育学会総会および大会東京大学本郷キャンパス 2005年7月29, 30日

篠原 翼：「肺血栓塞栓症の一例」千葉県重症患者管理研究会 千葉 2005年8月

Okada T. Special Topic Breakfast:「NetworkingInternational Family Medicine Educators」39th. STFM Annual Spring Conference. Society of Teachers of Family Medicine. San Francisco, CA, USA. April 26-30, 2006

Okada T, Kise M, Tagashira H. Scholastic Poster:「HANDS-FDF: Home/Away Nine Day FacultyDevelopment Fellowship in Japan」39th. STFMAnnual Spring Conference. Society of Teachers of Family Medicine. San Francisco, CA, USA. April 26-30, 2006

Tagashira H, Okada T. Fellows Poster in progress :「Audit of Diabetes Care at Primary Care Clinic in Japan」39th. STFM Annual Spring Conference. Society of Teachers of Family Medicine. San Francisco, CA, USA. April 26-30, 2006

大原紗矢香、岡田唯男：ポスター「外来における糖尿病診療の質評価」ポスターセッション22「医療需要・医療資源・診療の質-2」第29回日本プライマリ・ケア学会 2006年プライマリケア関連

学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

岡田唯男、細田俊樹：ポスター「CQI の手法を用いた診療の質向上の試み(1)-その理論的背景と手法-」ポスターセッション 22 「医療需要・医療資源・診療の質-2」第 29 回日本プライマリ・ケア学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

阪本直人、岡田唯男：ポスター「CQI の手法を用いた診療の質向上の試み(2)-肺炎球菌ワクチン接種率の向上-」ポスターセッション 22 「医療需要・医療資源・診療の質-2」第 29 回日本プライマリ・ケア学会 2006 年プライマリケア関連学会連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

伊藤かおる、岡田唯男：ポスター「CQI の手法を用いた診療の質向上の試み(3)-喫煙に対する医師の問題意識の改善-」ポスターセッション 22 「医療需要・医療資源・診療の質-2」第 29 回日本プライマリ・ケア学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

細田俊樹、岡田唯男：ポスター「CQI の手法を用いた診療の質向上の試み(4)-喫煙に対する医師の問題意識の改善-」ポスターセッション 22 「医療需要・医療資源・診療の質-2」第 29 回日本プライマリ・ケア学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

田口智博、岡田唯男：口演「家庭医療を研修する医師が地域住民に対して健康教室を行うことはどのような教育効果があるか？(質的研究)」

(accepted not presented) 一般口演 3 卒前・卒後教育 2 第 21 回日本家庭医療学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

加藤貴紀：ポスター「家庭医として開業した一般診療所における外科的処置の頻度と必要とされる手技への考察」ポスターセッション 5 診療手技・保健・高齢者 第 21 回日本家庭医療学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

大川 薫、岡田唯男：ポスター「家庭医が行う健康教室に対する地域住民の評価についての分析」ポスターセッション 5 診療手技・保健・高齢者第 21 回日本家庭医療学会 2006 年プライマリケア関連学会 連合学術会議 (第 29 回日本プライマリ・ケア学会 第 21 回日本家庭医療学会日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ共同開催) 2006 年 5 月 13, 14 日

5)招待講演、ワークショップ、講師など

【学術関係】

岡田唯男：主催 HANDS-FDF(Home and Away NineDay Faculty Development Fellowship) 第1回川崎協同病院 川崎 2005年3月

喜瀬守人、田頭弘子：コーディネーター HANDS-FDF (Home and Away Nine Day Faculty Development Fellowship) 第1回 川崎協同病院 川崎 2005年3月

田頭弘子：講師 先輩医師と語る「私の仕事、ライフスタイル、夢…」女子医学生のためのセミナー 神奈川民医連 川崎 2005年3月13日

岡田唯男：ワークショップ「研修医・指導医及び研修評価 Difficult learner の取り扱い」講義「ベッドサイドティーチングの行ない方」民医連関西臨床研修センター(主催)北陸東海地協教育開発センター(共催)平成16年度近畿地方協議会第2回臨床研修指導医養成講習会 神戸 2005年3月

岡田唯男：講演 "Me, Myself, Family Medicine, Faculty Development and Kameda Medical Center-Ten Year Journey" 在沖繩米国海軍病院沖繩 卒業記念講演 沖繩 2005年3月

岡田唯男：WS「対話による教育 The art of Questioning and Feedback」日本医科大学第2回医学教育セミナー 逗子 2006年4月9-10日

岡田唯男：講演「農村/地域医療に必要なもの」日本医科大学 農村医学研究会 東京 2006年6月10日

岡田唯男：WS「5つのマイクロスキル」第3回徳州会臨床研修病院指導医講習会 芝パークホテル 6/18-19/2005

岡田唯男：コンサルタント/WS「指導の仕方(1)presentationの指導法」「指導の仕方(2)短時間での指導法:5 microskills」第1回診療参加型臨床実習導入のためのクリニカル・クラクシップ指導者養成ワークショップ 日本医学教育学会卒前臨床医学教育委員会 富士教育研修所 2006年6月24-26日

岡田唯男：講義「患者のライフサイクルへの取り組み 成人へのアプローチ(Women's healthを中心に)」平成17年度第4学年前期総合教育科目『家庭医療(応用編)』聖マリアンナ医科大学 川崎 2006年7月1日

岡田唯男：WS「成人学習理論に基づいた指導」研修医、指導医のための講演会 聖マリアンナ医科大学 川崎 2006年7月1日

岡田唯男：主催 HANDS-FDF (Home and Away NineDay Faculty Development Fellowship) 第2回北部東京家庭医療学センター 東京 2005年7月

喜瀬守人、田頭弘子：コーディネーター HANDS-FDF(Home and Away Nine Day Faculty Development Fellowship) 第2回 北部東京家庭医療学センター 東京 2005年7月

岡田唯男：講演「家庭医、家庭医療について」グラクソ・スミスクライン株式会社 社内勉強会木更津 2005年8月1日

大橋博樹、山下大輔、田口智博、伊藤かおる、西岡洋右：WS「家庭医らしい外来診療とは？」医学生・研修医のための第17回家庭医療学夏期セミナー 新潟 2005年8月

佐野 潔、岡田唯男：WS「世界の家庭医療」医学生・研修医のための第17回家庭医療学夏期セミナー 新潟 2005年8月

岡田唯男：WS「外来指導のコツ：5マイクロスキル」小千谷市魚沼市川口町医師会 2005年8月

14-15日

岡田唯男、星 寿和：企画/WS「研修医、医学生の学びをサポートする」第17回医学教育セミナーとワークショップ 岐阜大学 MEDC 岐阜市 8/27-28/2005

岡田唯男：主催 HANDS-FDF (Home and Away NineDay Faculty Development Fellowship) 第3回亀田メディカルセンター 鴨川 2005年9月

喜瀬守人、田頭弘子：コーディネーター HANDS-FDF (Home and Away Nine Day Faculty Development Fellowship) 第3回亀田メディカルセンター 鴨川 2005年9月

加藤貴紀：越谷・草加医師会向け講演「プライマリケアにおけるうつ病の診断と治療」越谷コミュニティセンター 9/14/2005

岡田唯男：コースディレクター 日本プライマリ・ケア学会 プライマリ・ケア秋季実践セミナー 指導者養成ワークショップ パシフィコ横浜 10/8-10/2005

岡田唯男：コンサルタント/WS「プレゼンテーションの指導法」「短時間での指導法(5microskills)」第2回診療参加型臨床実習導入のためのクリニカル・クラークシップ指導者養成ワークショップ 日本医学教育学会卒前臨床医学教育委員会富士教育研修所 11/4-6/2005

岡田唯男：講師/アドバイザー (全般/質的研究)：初学者のための臨床研究 WS 第1回 家庭医療学会臨床研究 WG 主催 東京 11/12/2005

岡田唯男：WS「コミュニケーションの取りかた~5microskills」平成17年度近畿大学医学部附属病院臨床研修指導医養成講習会 大阪 11/12-13/2005

加藤貴紀：越谷・草加医師会向け講演「プライマリケアにおけるうつ病の診断と治療~実際の症例経験から」越谷コミュニティセンター 11/16/2005

岡田唯男：主催 HANDS-FDF (Home and Away NineDay Faculty Development Fellowship) 第4回聖マリアンナ医科大学 川崎 2005年12月

喜瀬守人、田頭弘子：コーディネーター HANDS-FDF (Home and Away Nine Day Faculty Development Fellowship) 第4回 聖マリアンナ医科大学 川崎 2005年12月

岡田唯男：チーフコーディネーター/講師「CareerDevelopment」「指導医養成、公衆衛生大学院(FD/MPH)」「家庭医療」野口医学研究所 医学交流セミナー「通過点としての米国臨床留学」米国財団法人野口医学研究所 東京 12/10/2005

岡田唯男：WS「指導医のあり方」「ベッドサイドティーチングのやり方」平成17年度東海北陸地方協議会 第2回臨床研修指導医養成講習会主催 東海北陸民医連卒後教育開発センター共催 民医連関西臨床研修センター 12/17-18/2005

岡田唯男：講師/アドバイザー (全般/質的研究)：初学者のための臨床研究 WS 第2回 家庭医療学会臨床研究 WG 主催 つくば 1/21-22/2006

岡田唯男：WS「異文化コミュニケーション」社団法人地域医療振興協会 地域医療研修センター ジュニアレジデントミーティング 東京 2/4/2006

岡田唯男：特別講演「家庭医療と診療報酬制度、診療の質の保障」第6回大阪プライマリ・ケア研究会天王寺 2/9/2006

山下大輔、大橋博樹、喜瀬守人、宮崎 景、伊藤かおる、西岡洋右、田口智博、岡田唯男：ワークショップ5「家庭医らしい外来診療とは」若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー 東京晴海

2006年2月11-12日

岡田唯男：WS「効果的なフィードバック」「症例カンファレンスの方法」全日本民主医療機関連
合会・九州沖縄地方協議会主催「指導医講習会」福岡 2/23-25/2006

加藤貴紀：埼玉県医師会乳がんマンモグラフィ読影講習会 準講師 2006.3.11-12

岡田唯男：講演「家庭医に必要な能力」愛媛民医連医師団会議 新居浜協立病院 3/11/2006 岡
田唯男：講師/ファシリテーター「コミュニケーションの取り方」近畿大学医学部新入初期研修
医対象セミナー 大阪梅田クロスウェーブ 4/8/2006

岡田唯男：コンサルタント(計画実行のアドバイス)/講演「学びのサポート」/WS「効果的なフィー
ドバックの方法」第20回セミナーとワークショップ in つくば ワークショップ1：魅力ある指
導医とは？-効果的な楽しい研修をサポートするためのノウハウ- つくば国際会議場
4/22-23/2006

岡田唯男：講演「米国の家庭医と家庭医療」福岡医師会学術講演会 福岡労災保険指定病院協会学
術講演会(市医共催)福岡国際ホール 5/23/2006

岡田唯男：講師/コンサルタント 卒後研修/臨床現場における教育/家庭医療後期研修の推進について
麻生飯塚病院 5/24/2006

岡田唯男：講師/アドバイザー(全般/質的研究)：初学者のための臨床研究 WS 第3回 家庭医療学
会臨床研究WG主催 川崎 5/27-28/2006

【一般向け講演】

田口智博、阪本直人：「たばこについて」鴨川中学校1年生 鴨川 2005年1月11日

西岡洋右、大川薫：親子学習会 保険学習「基本的生活習慣の大切さ」(朝食・排便・睡眠の必要性と
病気との関係について)「げんきのひけつ」太海小学校1-6年生 鴨川 2005/2/16

伊藤かおる、大川薫：「タバコの手」北条小学校 5年生 館山 3/9/2005

田口智博：「思春期の健康維持(皆さんの健康を守る為に)」亀田看護技術専門学校新入生 鴨川
4/20/2005

大川薫：「思春期の健康維持(皆さんの健康を守る為に)」亀田看護技術専門学校新入生 鴨川
5/2005

阪本直人、田口智博：「妊娠中・授乳中のママのくすりとアルコール」母乳育児応援サークル
WildChild 鴨川市 ふれあいセンター 2005/6/29

大原紗矢香、西岡洋右：WS「喫煙について」富浦小学校 富浦 7/8/2005

児玉和彦、篠原翼：「タバコの手」鴨川中学校鴨川 7/13/2005

児玉和彦、田口智博：WS「未来の健康」江戸川学園取手中高等学校(茨城県) 中等部2年生 鴨川
2005/7/26(学園祭研究発表；健康未来館(地球の健康・人間の健康・心の健康)の準備として。学園
祭当日は、この発表が最優秀賞を受賞)

加藤貴紀：草加市成人病教育推進事業講演「基本健康診査の結果のみかたとその意義」草加市保健
センター 8/30/2005

西岡洋右、田口智博：糖尿病予防教室「糖尿病とは」千葉県健保組合会員、40歳以上の被保険者・
家族 亀田クリニック 10/9/2005

篠原翼および家庭医診療科：健康に対する質疑応答 鴨川中学校1年生 総合学習の時間 K-Tower

10/19/2005

阪本直人、大川 薫：糖尿病予防教室「糖尿病とは」千葉県健保組合会員、40歳以上の被保険者・家族 亀田クリニック 11/13/2005

加藤貴紀：草加市成人病教育推進事業講演「生活習慣病と予防について～メタボリックシンドロームとは」草加市保健センター 11/17/2005

加藤貴紀：講演「糖尿病はなぜ怖い～ひそかにしのびよる生活習慣病」草加市「糖尿病と合併症を知るつどい」草加市保健センター 12/4/2005

児玉和彦、西岡洋右：「みんなで子育て～知っておいてほしいこと～」亀田看護技術専門学校助産学科主催 2カ月児新人ママ対象 3/4/2006

児玉和彦、篠原 翼：「思春期の健康維持(皆さんの健康を守る為に)」亀田看護技術専門学校新入生 鴨川 4/12/2006

6)その他

【座長、大会長、司会、パネリストなど】

岡田唯男：シンポジスト「家庭医養成施設の立場から」日本プライマリ・ケア学会 プライマリ・ケア秋季実践セミナー 家庭医療の専門的能力を考える パシフィコ横浜 10/10/2005

岡田唯男：パネリスト Web 討論会「臨床研修のこれまで、これから」ジャミックジャーナル・ブラメド共催 4/17-23/2006

岡田唯男：座長 学会主催シンポジウム「家庭医療指導医をどのように養成するか」第21回日本家庭医療学会 2006年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議(第29回日本プライマリ・ケア学会 第21回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催) 2006年5月13,14日

岡田唯男：座長 教育講演 1 Jeannette E. South-Paul (ピッツバーグ大学家庭医療学講座)「Caring for the Family:Family Medicine LeadingHealth Care」第21回日本家庭医療学会 2006年プライマリ・ケア関連学会 連合学術会議(第29回日本プライマリ・ケア学会 第21回日本家庭医療学会 日本総合診療医学界臨床研究インタレストグループ 共同開催)2006年5月13, 14日

【面接官、試験官など(依頼)】

岡田唯男：試験官、選考委員野口医学研究所 2005年度米国医学研修生選考会東京 2005年12月

【取材・メディアなど】

- ・喫煙の影響に児童ら驚き 北条小で健康教育医師招き説明聴く -館山-千葉房日新聞 2005.3.11,2005:1
- ・木戸友幸：第28回21世紀の医療連携 No Side Conference in Primary Care の試み -大阪市東淀川区医師会-ClinicianNo.538, 2005:115-119(第4回の岡田の講演について)
- ・「医を育てる-医師教育と臨床研修」日本経済新聞 2005年9月28日夕刊(岡田. 家庭医後期専門研修プログラムの紹介)
- ・金スベ「みのもんたの激論! 医者ズバツ」2006/3/24(金)18:55- 全国TBS系(岡田. 20人の医師の1人として)
- ・ばんぶう 特集2 日本医療の将来を支える家庭医の真の姿を追うの中で「米国の家庭医療の理念から真の家庭医を養成する」2006 March.P40-41.(家庭医後期専門研修プログラムの紹介)

・日テレG+「医療ルネサンス」(#25 医師を育てる研修新事情) 2006/4/9 放送 (岡田. 初期研修医
1年目福田真弓医師の当直時に指導医として)

【一般向け、内部関係】

篠原 翼:「子供の予防接種について」 茂原機能クリニック かわらばん 7月号

田口智博(指名):「亀田総合病院での研修に興味をもたれている医学生の皆様へ」 亀田メディカルセ
ンター研修医募集ホームページ 亀田レジデントへの期待 2005年3月

岡田唯男、田口智博:院内 ACLS 講習会講師 2006/1/31

岡田唯男:講師/企画 learning how to teach セミナー 院内新シニア対象 亀田総合病院 2006/4/1

岡田唯男:講義 「病態学:呼吸器の病態学」 第1看護学科、第2看護学科亀田看護技術専門学校
2006年6月、7月

文責:岡田唯男